

令和3年度 目黒日本大学中学校高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

本学園の建学の精神である「質実剛健・優美高雅」、また、教育理念「しなやかな強さを持った自立できる人間を育てる」を基として、「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び「自主創造」を教育方針に反映させ、付属校として「日本大学」の名にふさわしい学園づくりを実施し、生徒一人ひとりの個性を磨き込み、時代に流されない人間力と知性を併せ持った、輝く人材を育成する。

〔本校の特長〕

本学園は、平成29年12月4日、日本大学と準付属校契約を締結し、平成31年4月から校名を日出中学校高等学校から目黒日本大学中学校高等学校に変更した。そして令和2年4月から学校法人名を学校法人日出学園から学校法人目黒日本大学学園に改称し、中学校、高等学校全日制課程、高等学校通信制課程及び幼稚園を展開している。

中学校・高等学校は、自ら考え、自分なりの答えを導き出すPDCAサイクルを積み重ね、「探究学習」、「ICT教育」を積極的に取り入れることにより、将来のキャリアを切り拓く力を育成する。特に、中学校においては、6年間の中高一貫教育を実施、高等学校全日制課程においては、2つのコース（進学コース、スポーツ・芸能コース）、4つのクラス（特進クラス、N進学クラス、スポーツクラス、芸能クラス）、高等学校通信制課程においては、2つのコース（スタンダードコース、芸能・スポーツプロフェッショナルコース）、3つのクラス（進学クラス、普通クラス、芸能・スポーツプロフェッショナルクラス）をそれぞれ設置し、生徒一人ひとりの目標に合わせた教育を実施している。

〔本校の課題〕

- ・日本大学への進学者数については、目黒日本大学高等学校1期生である令和3年度の進学率目標値は、全日制では全体の70%超、通信制では15%弱を達成させることを目標に、さらなる基礎学力到達度テスト対策の強化を推進する。
- ・日本大学各学部との高大連携を推進する。
- ・高等学校新学習指導要領に対応した新カリキュラム及び授業シラバスを作成し、それに伴うカリキュラムマネジメントやルーブリック評価の在り方を検討する。
- ・校内での教員研修を充実し、教員の指導力向上（未来社会に即応した中学高校教育の在り方、大学入試に向けた最も合理的で適切な指導法の確立）を図る。
- ・SNSを活用した、受験生やその保護者へのタイムリーな情報発信サービスを徹底する。
- ・生徒会指導部による、地域との共生に関し、主体的かつ共生的な地域活動の機会創出を推進する。
- ・生徒へのより良い保健指導及び衛生管理を実現するため、新設した保健衛生部の業務における指示系統の一本化と、他部署との連携強化を進める。

令和3年度の取組結果

〔概況〕

・学園

昨年起きた学園資産の一部損失に係る一連の事件により、学園は損害を被ったわけであるが、今年度はこのようなことを二度と起こさないため、学園で策定した「法人運営の改善方針及び具体的な取組計画」に基づき、学園理事会を中心としたガバナンス体制を再構築し、『新生目黒日本大学学園』として、健全な学校法人運営及び教育活動に更に取り組んできた。その結果、東京都からも一定の評価を得ることができ、昨年度は50%減額

になった「私立学校経常費補助金」も、今年度は全額支給されることとなった。今後、この再構築されたガバナンス体制を引き続き維持することが求められるとともに、一連の事件に関する刑事告訴を含めた損害賠償請求訴訟等についての対応が求められた。

・中学校

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により限られた学校行事ではあったが、1年生の鎌倉・浅草訪問、2年生の多摩川水質・水生生物調査、3年生のTGG（東京グローバルゲートウェイ）訪問、SDG's フィールドワークなどを通じて、生徒が直接に見聞する体験の時期を変更し実施することができ、普段の学習活動へのモチベーション向上及び協調性や帰属意識の醸成を図ることができた。また、宿泊行事も実施することが出来、1年生のオリエンテーション合宿、2年生の林間学校、3年生のオーストラリア短期留学などようやく本来の行事を実施できるようになってきた。

イレギュラー対応であったが、学校の通信環境が整い、オンライン授業（Zoom, Teams）を学園全体で実施することができた。また、ウィークリーテスト（国語・数学・英語）における不合格者や、各科目における提出物未提出者をそのままにせず、学習支援センター等を活用して生徒のフォローアップを実施することができた。学力上位層の引き上げを達成するための主たる施策である「特別課外講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なからず受けたが、昨年度に比べるとしっかりと開講することができた。

オンライン授業や部活動の自粛等が今年度も多少あった影響により、生徒の心理的なストレスが増加傾向であるのは変わらなかった。その対応として、教育相談委員会での定期的な報告及びスクールカウンセラーとの密な連携をもとに、生徒の変化に気付くことができる体制強化が今年度も構築できた。

探究活動については、生徒の各グループによる調査・探究活動、プレゼンテーションを実施することができ、思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力の育成に一定の効果をみる事ができた。各フィールドワークも今年度はすべて実行することができた。

・高等学校全日制課程

日本大学への進学者増加を目標として、「基礎学力到達度テスト」への特別授業を始めとする指導体制をとったことにより、日本大学への内部進学希望者のうち222名（98%）の生徒が進路希望を実現することができた。また、卒業生全体に占める日本大学進学者も70%を超える生徒数であり、目標を達成することができた。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、教育活動に多くの計画変更や見直しが発生した。ただし、通常授業においては、昨年度より整備を進めていたオンライン授業のノウハウにより、生徒の学びを止めることなく運営することができた。またさらに、全校で感染予防に努めながら、「体育祭」や「すずかけ祭」などの学校行事を実施することができた。実施できなかった行事としては、「高校1年生オリエンテーション合宿」、「高校2年生修学旅行」等があるが、次年度に代替行事を実施する計画を立案している。

一方、オンライン授業や部活動の自粛等が相次いだ影響により、生徒の心理的ストレスの増加が、昨年度から引き続きみられた。そのため、生徒アンケートや教育相談委員会の定期開催等、生徒の変化にいち早く気付くことができる体制強化に努めた。

・高等学校通信制課程

令和2年度の在籍者数は前年度と比べ急激に減少した。これは、その年度内に転入学できる期間を短く設定したこと、コロナ禍の状況において全日制高校からの転入学希望者が減少したことが大きな要因と考えられる。しかし、令和3年度には、日本大学付属の通信制高校であることが広く認知され始めたこと、転入学の受け入れ期間を延長したこと、また学校説明会などを計画的かつ効果的に実施したことにより、新入生・転編入生の人数が増加した。特にアドバンスクラスへの入学者は増加傾向にある。

各担任による進路指導（進級、卒業、進路決定）においても、個々の生徒の実情に合わせたきめ細やかな指導を行っている。

生徒会活動においては、生徒会役員の生徒を中心に、体育大会や学校説明会での手伝いなど、例年以上に活発な活動を行っている。また、部活動は通信制独自の活動と、全日制の生徒と合同で行っているものもあり、さら

に、外部団体で活動している生徒がいる。

学校行事としては、コロナ禍により2年間中止となっていた希望制の林間学校を実施し、多くの生徒が参加するなど、以前の活気を取り戻しつつある。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
新学習指導要領への対応	高校の令和4年度のカリキュラムが9割完成している。国公立大学への進学を目指す特進クラスと、日本大学への進学を目指すN進学クラスのカリキュラムの最終調整を行い、令和3年度4月には完成させる。 ⇒ 5月に時期は、ずれてしまったが、完成済み。	A
高大接続改革	日本大学スポーツ科学部と芸術学部に、経済学部を加え、本校の探究活動（高3リベラルアーツや高2I P）の授業連携を図ることができた。次年度から、経済学部の進学を希望する者や興味のある生徒を対象にした大学の講座が受講できることになっている。	A
学力向上・定着	学力の定着を図るため、4つの取り組みを行った。 ① 定期試験の振り返りは、生徒のみが行うのではなく、教科担当者も行った。各クラスの試験の振り返りと次回に向けてのアドバイスをすることで、生徒の助けになるものを作成した。また、これらは保護者にClassi配信した。 ② 長期休暇中の課題に対して、休暇明けに各教科が確認テストをすることで、基礎学力の定着を図った。 ③ 基礎学力の定着を図るため、特別時間割を編成した。高2を4月、高3を4月と9月に実施した。 ④ 年に2回（7月、12月実施）、生徒に対し、各授業の授業満足度アンケートと、教員に対し、各自の授業の振り返りアンケートを行った。これらのアンケート集計をもとに、各自の「強み」や「課題」について振り返り分析を行い、さらに各教科での教科会で、各教科の「強み」と「課題」をまとめた。全体では、「予習復習」の定着を図ることと、「学力向上」の2点を重点項目とした。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	生活指導部と教育相談室との連携強化といじめ防止対策委員会を設置した。年間2回のいじめ防止アンケートを実施した。いじめ防止のリーフレット配布、SNS関連の講演会、グループコミュニケーション、構成的エンカウンターグループの導入など生徒間の適切なコミュニケーションを促進させるプログラムを実施した。	B
LGBTへの理解	各種講演会の実施や授業内でのLGBT教育の促進。女子生徒用制服にスラックスを導入した。スラックスのフォーマル化。	A
体罰防止	生活指導部と教育相談室との連携強化と体罰防止対策委員会を設置した。年間2回の体罰防止アンケートを実施した。教員研修を実施した。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動加入率【目標数値75%】	中学校91% 高校87%	A
体育祭満足度【目標数値4.1以上】	4.3	A
文化祭ホスピタリティ【目標数値3.5以上】	3.8	A
文化祭クラスへの帰属意識【目標数値3.5以上】	4.1	A
学校生活アンケート(高3)【各項目3.5以上】	「明るい」4.3 「優しい」4.3 「忙しい」3.9 「前向き」3.9	A
学校生活アンケート(中1～高2)【各項目3.5以上】	「明るい」4.4 「優しい」4.4 「忙しい」3.6 「前向き」3.5	A
NU祭での入賞【3本以上の入賞】	文芸コンクール 入選2名 佳作5名	B
ブログの配信【中学60件 高校90件】	中学18件 高校23件	D

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学への内部進学者が令和2年度の85名から今年度225名へ大幅に増加した。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
安全教育の徹底	教育講座の開催が行われなかった。 予防啓発活動としての発行物は計画どおり行われた。	C
安心な環境の確立	分掌の連携として教育相談委員会, 保健衛生部を核とした学年との連携は定例会を通じて図られた。	B
安全教育の研究	保健室, 生徒支援室の来室統計の実施は計画通り行われた。 いじめ防止アンケートの実施および対応は計画通り行えた。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
本の貸出冊数 1800冊	983冊	C
目黒日大新聞の発行学期に1回	3回	A
ICT教材の活用	IPの授業でoffice365を導入した	B

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
募集定員の充足	目黒日本大学中学校高等学校となり,受験生の4年間のイベント参加数および,入試実績も各年の数値で昨年を上回る実績となっている。結果,中学校は106名の手続きで3クラス,高等学校は芸能クラスでの募集に課題はあったものの募集要項の315名の定員は充足し,10クラスで新年度をスタートすることができた。	B
広報活動の質向上	広報部の業務を各種委員会の利用によって教職員全体に共有することができた。また,各イベントに対して担当を立て,タスクブレイクできた。特に,外部相談会が実施できず,内部説明会においても新型コロナウイルス感染症の影響で来校出来なかった際に,「YouTubeLive」で学校説明会を実施したことによって受験生・保護者以外にも,受験学年でない方々にも視聴していただけたことは評価できる。また,公式LINEアカウントを導入したことによる成果は評価できた。次年度もこちらは継続し,タイムリーに本校の情報を発信していく。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

管理運営(分掌・会議・委員会, 財政, 施設・設備等)

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
法人事務	理事会, 評議員会, 執行部会の運営, 日本大学本部, 東京都, 目黒区との対応, 公文書, 公印管理, 議事録作成, 各種規程の改廃, 法人保険取扱等法人業務を実施した。 また令和2年度に起きた学園資産の一部損失に係る刑事告訴を含めた損害賠償請求訴訟及び平成28年3月に本学園が提訴した「宅地境界確定等請求事件」に関する業務を実施した。	B
総務事務	園児・生徒在籍管理, 就学支援金・奨学金等保護者負担軽減事務, 各種証明書発行, 教科書発注, 生徒保険取扱, 幼稚園事務全般を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により, 各種学校行事の規模縮小, 延期及び中止が相次いだことにより, 通常業務とは異なる事務手続きが多い1年であった。 人事・採用, 労働組合関係, 労務管理, 福利厚生, 給与, 人事計画案作成を実施した。今年度の専任教諭等の採用者数は, 12名(うち幼稚園4名)で, 退職者はいない。2月末現在の専任教員等の内訳は, 中高80名, 幼稚園22名, 外国語指導助手4名の合計106名(校長, 園長含む)である。 日本大学健診センターでの健康診断を実施し, 緊急事態宣言が出されていたため, 受診時期を4~6月から7~9月に変更した。なお, 専任教職員等の受診率は約98%となった。	B
管財事務	クラス数増加に伴い短期間で, 会議室を普通教室としカフェテリアを選択室として利用できるよう改修工事を実施した。 印刷機(2号機)を更新し, 教員の利便性向上を図った。	A

	選択教室に電子黒板を整備した。 徐々に増えつつある設備の修理を、極力教育活動の妨げにならないよう調整し実行した。	
経理事務	預かり金を適正に管理した。	B

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

令和4年度の実組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領の対応	「何ができるようになったか」を明確化できるよう、学校の評価方法として、ルーブリック作成をする。 主体的な学びができるよう、社会に関わる取り組みを増やす。外部の特別活動等について、放課後や土曜日の午後に、希望者を募った活動を行う。	ルーブリック作成委員会を開き、役割分担する。(要相談)
高大接続改革	教頭、事務局と連携を密に取り、日本大学の各学部と高大接続を行う。特に、高校2学年I P授業担当者、高校3年リベラルアーツ担当者を中心に、学校設定科目の充実を図る。生徒のフィールドワークを行うことで、大学教授と連携を図り、学園の核となるように構築する。	大学関係者と連絡を取り、打ち合わせや事業計画を練る。(要相談)
学力向上	① 4月、9月に行われる基礎学力到達度テスト前に、特別授業を行い、基礎学力到達度テスト対策をする。 ② 6月に研究授業を実施し、自教科・他教科の良い取り組みを共有する。 ③ 定期試験の振り返りを徹底し、細かな声かけで、生徒のやる気を引き出し、得意分野はさらに得意にし、苦手分野を自ら克服できるような施策を練る。(教科主任会) ④ 強制(宿題)ではなく、任意の課題に取り組みせ、自主性を重んじる。(教科主任会) ⑤ 基礎学力到達度テストの入試教科は、毎学期の初めに確認テストを実施する。	① 7月、12月の学期末に基礎学力到達度テストに向けた課題を課す。 9月、1月に課題の確認テストを課す。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ体罰(暴言・暴力)防止のための取組	① 教育相談委員会・いじめ防止対策委員会と連携を強化する。 ② いじめ体罰防止対策委員会を設置する。 ③ 年2回のいじめ防止アンケートを実施する。 ④ いじめ防止のリーフレットを配布する。 ⑤ SNS関連の講演会(生徒・保護者・教員)を実施する。 ⑥ グループコミュニケーションを実施する。 ⑦ 教員研修を実施する。	① 随時 ② 4月 ③ 7・12月 ④ 4月 ⑤ 4・9月 ⑥ 随時 ⑦ 4月・9月
教職員の統一的な指導	教育相談関連の外部教員研修への積極的参加 外部講師による講演会、校内研修の実施(教員間で	随時 4月・9月

	価値観の共有，職場内教育)	
生徒への価値観指導	生徒にテーマを与え，(挨拶・校則・SNS 関連・成人年齢引き下げなど) ケーススタディやアイスブレイクの実施し，正しい「判断力」を身につける。	4月・9月・1月 学校行事(修学旅行・文化祭・体育祭など)と関連させて実施

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「優しい」に関わる企画の実行と地域活動の促進	地域活動(お祭りや清掃活動，高齢者施設や児童養護施設への慰問など)を通して他者への思いやりの気持ちを育み，エコ活動や環境への配慮を考えた取り組みにつなげていきたい。	8月末までに3件の地域活動，3件の「優しい」に関わる活動を目標としたい。
高大連携	日本大学各学部の学園祭への訪問，学生との交流を企画し，進学意識の向上に努めたい。	10月末までに3件の学園祭の訪問，8月末までに1件の学生との交流企画を目標としたい。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	① 各種講習による基礎学力の向上 ② 校内説明会やキャンパス訪問による生徒の進学意識向上	① 各時期の講習や進路行事を通して通年で養っていく
国公立・難関私大合格者増加に向けた取り組み	① 難関校の受験に向けた教科指導のサポートを実施する。 ② 進路指導に必要な資料の提供をする。 ③ 生徒の意識向上のためのガイダンスを実施する。	① 日々の授業や模擬試験，進路ガイダンスなどを通して通年で養っていく

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
安心な環境の確立	学校安全計画と学校保健計画の立案 ・管理と教学が連携し危険個所の早期発見と早期改善を徹底し安全な環境整備に当たる。 ・心身の健康に関する教育の実践と予防活動を推進する。	学校安全衛生委員会の定例会を行う。 保健衛生部会の定例会を行う。
安全教育の研究	保健室・生徒支援室の統計の継続と生徒対応の実践をする。	毎月の集計と保健衛生部で分析を行う。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
読書活動の推進	IP との連携・図書だよりの工夫・HP の活用をする。	通年
ICT スキルの向上	教員研修を実施する。	年2回

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
募集定員の充足	中高共に募集定員を充足する。 (中学 105 名，高校 350 名※内部進学生含む) (1) 各説明会参加者人数が一昨年比以上 対面のイベント機会を逃さない。	

	(2) HP の更新頻度の向上と閲覧数が前年度の 30% 増 (写真掲載率 95%以上) を目指す。	
広報活動の質を高める	<p>① ホームページの更新頻度を高める。</p> <p>(1) 学年輪番制・広報部輪番制によるブログ更新制度を確立する。</p> <p>(2) 部活動など行事以外でも全先生方が、タイムリーな情報の提供を行う。</p> <p>(3) SNS を利用した情報の発信を行う。 LINE, バナー, HP への導線を整える。</p> <p>② 学校・塾訪問活動の質の向上</p> <p>(1) 中学受験 大手塾本部への訪問活動の実施, 実績のある教室への訪問活動と状況報告を行う。</p> <p>(2) 高校受験 年間通じての電話連絡と資料発送による業務の効率化を図る。実績のある教室への訪問活動と状況報告を行う。</p> <p>③ 外部研修の参加 広報部のレベルアップ ⇒ 職員会議での共有 ⇒ 学園全体のレベルアップ 本校の立ち位置と現状をしっかりと把握する。</p>	<p>① 3 月に次年度の年間活動計画表を作成する。4 月の運用から毎月振り返り, 分析を行い, 翌月に繋げる。</p> <p>② 各イベントの前後で情報共有し, 少なくとも学期毎の報告を行う。</p> <p>③ 年間通じて, 他校のイベント状況 (中学校公開日の実施方法や説明会頻度など) を確認する。 9 月までには情報を集約し, 10 月, 11 月のイベントに備える。</p>

管理運営(分掌・会議・委員会, 財政, 施設・設備等)

取組目標	取組方策	取組スケジュール
法人事務	<p>法人事務局の業務を充実する。「法人運営の改善方針及び具体的な取組計画」において, 全てが達成されていないため, 引き続き学園全体のガバナンス再構築に取り組む。</p> <p>理事会, 評議員会, 執行部会の運営, 日本大学本部, 東京都, 目黒区との対応, 公文書, 公印管理, 議事録作成, 各種規程の改廃, 法人保険取扱等法人業務を実施する。</p> <p>また, 学園資産の一部損失に係る刑事告訴を含む損害賠償請求訴訟及び宅地境界確定等請求事件に関する業務を引き続き行う。</p>	<p>理事会は隔月開催, 執行部会は週 1 回開催, 日大・都・区対応及び規程の改廃は理事会決議に応じ対応する。</p>
総務事務	<p>個々の担当業務における理解度は, 昨年度と比較して高まったと思われるが, 総務全体としての業務理解度をさらに向上させる必要がある。個々の担当業務の枠にとらわれず, 広い視野を持って業務を遂行することが求められる。園児・生徒在籍管理, 就学支援金・奨学金等保護者負担軽減事務, 各種証明書発行, 教科書発注取扱, 福利厚生施設利用管理, 生徒保険取扱, 幼稚園事務全般を実施する。</p>	<p>在籍管理は園児・生徒の異動により対応, 保護者負担軽減事務は各自治体スケジュールに応じ対応する。</p>
管財事務	<p>① 総合棟 2 階の第 1 選択室・書道準備室等を普通教室へ改修する。</p> <p>② 空調機の更新計画を作成する。</p>	<p>① 令和 4 年 4 月より普通教室として利用できるようにする。</p> <p>② 運転時間を考慮して計画を</p>

	施設設備管理, 機器備品管理, 固定資産管理, 物品調達, 光熱費管理する。	年度中に作成する。
経理事務	① 業務マニュアル等を作成する。 ② 予算管理システムと会計システムの連携等を行う。	